

株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

平成26年3月期(第53期) 報告書
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

enplas



株式会社エンプラス

Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 07. 特集 半導体機器事業
- 08. 連結財務の状況
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。

株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。



代表取締役社長 横田大輔

Q 当期(第53期)の経営実績についてお話しください。

当社のコア事業であるエンプラ事業関連では、プリンター用部品は世界的な需要低迷を受け横ばいで推移しましたが、自動車用部品は世界規模での自動車生産の増加により堅調に推移しました。スマートフォンやタブレット用途の増加により順調に市場成長を続けている半導体においては、当社のテストソケット販売、車載用途のバーンインソケット販売が好調に推移し、さらに円安の影響もあり、売上・営業利益ともに前年度を上回ることができました。LED光源液晶テレビは、コストメリットのある光源直下型タイプの採用が加速したことで、当社の光拡散レンズの販売が大幅に増加し、飛躍的な事業成長を遂げました。この結果、当期連結累計で、売上・利益ともに前年度を大幅に上回る結果となり、営業利益、経常利益、当期純利益においては過去最高益を更新いたしました。

Q 当期(第53期)は海外展開が多く見られましたが、具体的に実施した施策についてお話しください。

激化するグローバルでの競争に勝ち抜くため、経営基本方針で掲げておりました「グローバル経営基盤の強化」として、世界のあらゆる所で、あらゆるソリューションを、あらゆるお客様にスピーディーに提供できる体制を構築すべく、グローバル成長戦略推進に向けた積極投資を行いました。半導体機器事業関連におきましては、市場の中心で顧客のニーズを的確に掴み、グローバルベースで迅速な経営判断を行えるよう、国内子会社である株式会社エンプラス半導体機器の本社機能をシンガポールへ移管いたしました。このシンガポールへの本社機能移管に合わせて、更なる事業拡大を目的とし、フィリピンにシンガポール新会社100%出資の現地法人を設立いたしました。また、車載、携帯電話・スマートフォン向け半導体の市場メインプレイヤーの開発拠点が集中する欧州においても、お客様の声を直接聞き、スピーディーにソリューション開発に反映させる体制構築を目的として、欧州販売代理店からバーンインソケット、

株主の皆様へ

テストソケット事業（欧州における営業権と同社の子会社2社（ドイツ、イタリア）の株式を含む）を譲り受けました。この事業の受け皿として、休眠中であったオランダ子会社の活動を再開し、世界市場をカバーするマーケティング体制を強化いたしました。さらに新事業開発のバイオ・光通信分野においては、有力顧客が集中する米国西海岸にマーケティング機能の強化と最先端技術の情報収集を目的とした新会社を設立し、活動を開始いたしました。

Q 今期（第54期）の取り組みについてお話しください。

当社グループは、経営環境の変化に迅速に対応し、各事業セグメントにおいて選択と集中を高めたグローバルベースでの高収益事業運営を確立することを中期的な経営戦略としております。本格的なグローバル経営の実践による「グローバルエンプラス」の実現を目指すべく、コーポレートガバナンス体制の強化としてグローバルベースで豊富な経験を持つ2名の社外取締役が経営に参画いたします。グローバルな視点から、外的環境の変化に柔軟かつ迅速に対応し、コア技術をベースとした創造的価値を世界市場に提供し続けてまいります。

これらの実現に向けて、海外も含めたグループ社員全員が一丸となって目標達成に取り組むべく、以下2つを今期（第54期）

第54期経営基本方針

- ① Pursuing Sustainable growth with well balanced
バランスのとれた持続可能な成長
- ② Reshaping the Global Enplas
前進していない現実を直視し、様々な問題の解決

経営基本方針と定め、積極的な事業活動を展開してまいります。

- ① 一事業に偏重しない、バランスのとれた経営基盤を構築し、
バランスのとれた持続可能な成長を図る
- ② 更なる成長ステージを目指すために、必要な課題に取り組み、
様々な問題を解決し、前進する

Q 株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により、強固な財務体質を堅持しております。経営活動の成果は、明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また安定的配当の考え方も取り入れた上で今期以降の業績予想を勘案し、配当を決定しております。

内部留保しております資金については、中長期的展望に立って生産設備投資や研究開発投資、また情報化投資や新事業創出のためのM&A資金などに振り向けられており、将来においても収益力を向上させることを基本概念として、株主の皆様へ還元できるものと考えております。

なお、当期配当につきましては、中間配当として1株当たり30円を実施いたしました。期末配当金については1株当たり40円、通期で1株当たり70円とさせていただきます。

Q 株主の皆様へ一言お願いします。

私たちは、当社にしか実現できない「高精度・高機能・高品質」製品の開発に挑戦し、お客様に感謝される製品・サービスを提供してまいります。そして、世界に新しい創造的価値を提供するイノベーションカンパニーを目指してまいります。

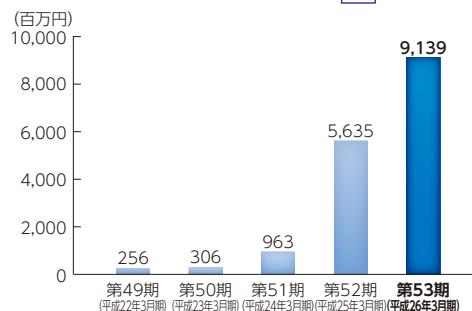
今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻をたまわります様、よろしくお願い申し上げます。

連結業績の推移

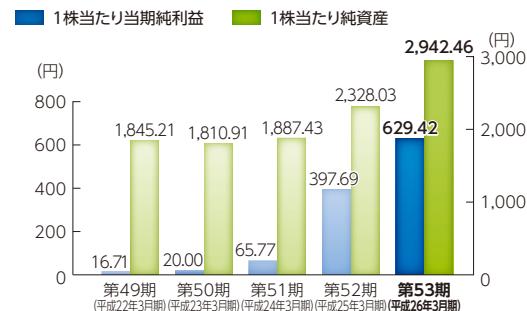
■ 連結売上高 …… 1



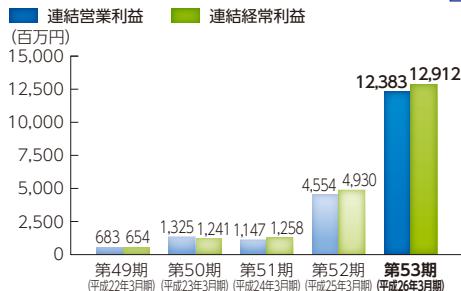
■ 連結当期純利益 …… 3



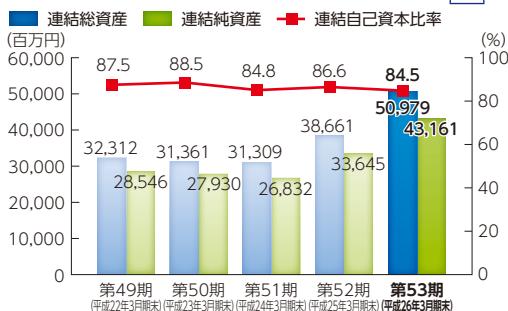
■ 1株当たり当期純利益 / 1株当たり純資産



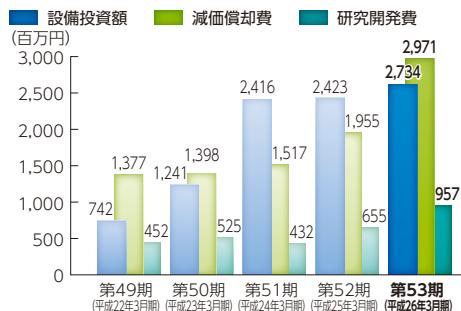
■ 連結営業利益 / 連結経常利益 …… 2



■ 連結総資産 / 連結純資産 / 連結自己資本比率 …… 4



■ 設備投資額 / 減価償却費 / 研究開発費



ポイント 1

当期における連結売上高は39,529百万円（前期比50.6%増）となりました。

ポイント 2

連結営業利益は12,383百万円（前期比171.9%増）、連結経常利益は12,912百万円（前期比161.9%増）となりました。

ポイント 3

連結当期純利益は9,139百万円（前期比62.2%増）となりました。

ポイント 4

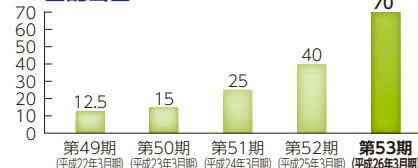
連結純資産は43,161百万円（前期比28.3%増）、自己資本比率は84.5%（前期比2.1%減）となりました。

株主還元について

1株当たり 配当金70円

当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して中間配当を含む年間配当を1株当たり70円とさせていただきます。

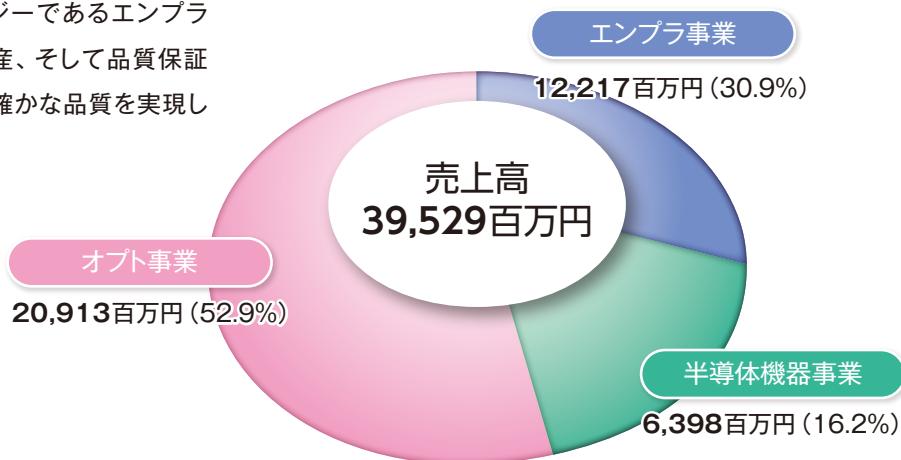
■ 配当金



事業別概況

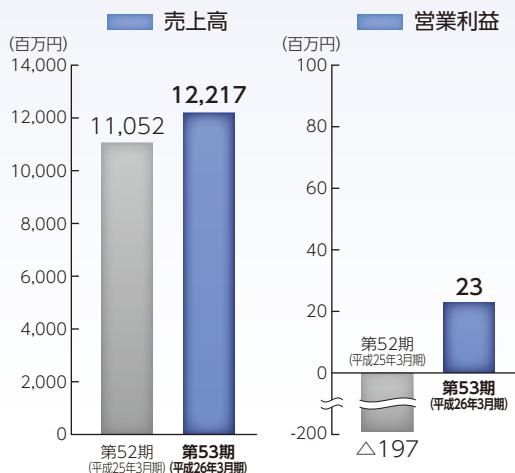
事業セグメント別売上高構成比 平成26年3月期 (平成25年4月1日から平成26年3月31日)

当社の各事業は、先進のオプティクスやエレクトロニクス技術を、基盤テクノロジーであるエンブラ技術に融合し、金型設計から量産、そして品質保証まで含めた一貫生産体制により確かな品質を実現しています。



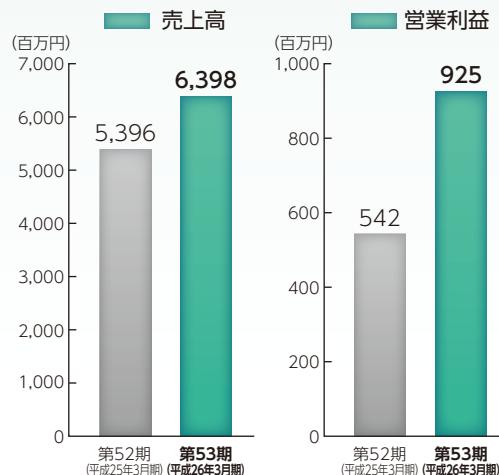
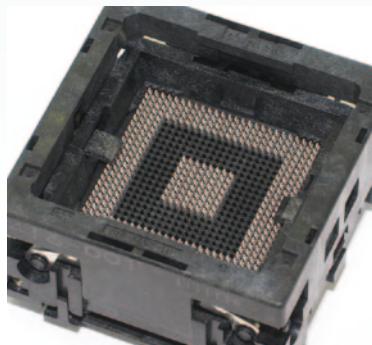
エンブラ事業

プリンター用部品は世界的な需要の低迷により横ばいで推移しましたが、自動車用部品は、世界規模での自動車生産の増加により堅調に推移しました。製造原価低減活動や円安の影響もあり、当期の売上高は12,217百万円(前期比10.5%増)、セグメント営業利益は23百万円(前期は197百万円のセグメント営業損失)となりました。



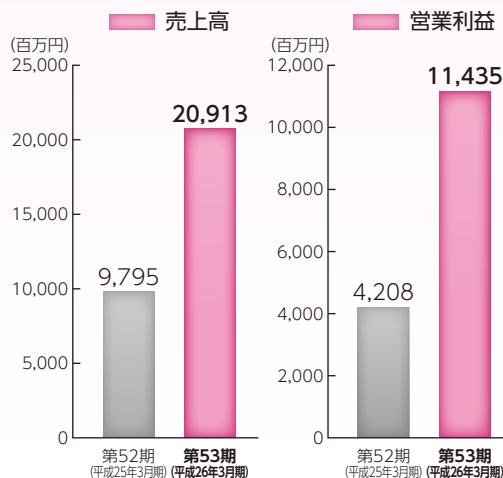
半導体機器事業

海外向けの車載用途は、下半期は上半期から一転して受注が停滞いたしました。累計では前年度を上回る結果となりました。また、テストソケット販売も前年度を上回る結果となり、これに海外調達促進、円安の影響も加わり、当期の売上高は6,398百万円（前期比18.6%増）、セグメント営業利益は925百万円（前期比70.5%増）となりました。



オプト事業

主力のLED用拡散レンズは、新興国市場において、LED光源液晶テレビの中でもコストメリットのある光源直下型タイプの採用が進んだことにより、当社レンズの搭載モデルがさらに拡大いたしました。光通信関連のレンズにおきましては、新興国を中心としたスマートフォン需要拡大により、サーバー市況が好調に推移したため受注が増加しました。この結果、当期の売上高は20,913百万円（前期比113.5%増）、セグメント営業利益は11,435百万円（前期比171.7%増）となりました。



当社の事業の中から、半導体機器事業についてわかりやすくご紹介します

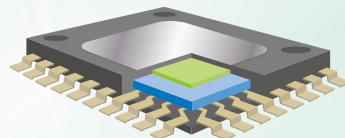
当社は、卓越した開発力と独自の高性能樹脂の応用技術、揺るぎない品質保証体制で、半導体の開発・量産に貢献し、半導体産業の発展をグローバルにサポートしています。

半導体 (semiconductor) とは

そもそも
半導体って
なに？

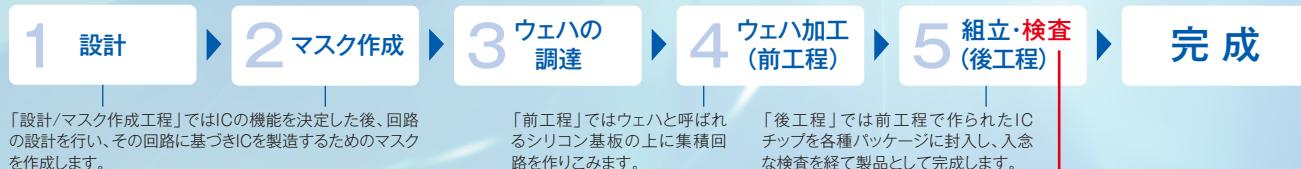
電気を通しやすい「導体」と電気を通さない「絶縁体」との中間の性質を持つ物質ですが、一般的には半導体そのものではなく、半導体素材の基板の上に抵抗素材を配置し、様々な機能を持たせたIC (集積回路) のことを指します。

ICはPCをはじめ、携帯電話やデジタルカメラ、自動車や飛行機などあらゆる電子機器に搭載されており、現代のテクノロジーになくてはならないものです。



黒い半導体パッケージの中には、ICチップが入っており、ICチップは一片のシリコン上に微細加工技術でダイオードやトランジスタなどを作り、それらの間を配線し、電子回路としての機能を持っています。

半導体製品完成まで

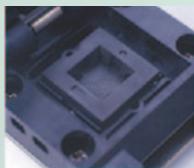


半導体機器
事業って
なにを作っ
ているの？

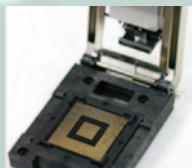
『バーインソケット』、「テストソケット」

全ての半導体は出荷前に性能検査が行われます。この検査に使われる治具を「テストソケット」と言います。その中でも加熱加速試験等で、半導体のICパッケージを挿入固定、通電し強制的に初期不良を発生させることで、デバイスを選別するための治具を『バーインソケット』と言います。

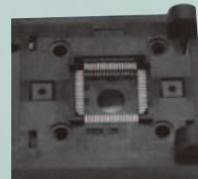
当社では、コア技術であるエンブラ技術を応用し、エレクトロニクス技術などの様々なテクノロジーを融合させ、この『バーインソケット』や「テストソケット」の製品化を行っております。サーバーやPC用のCPU、車載、スマートフォンなどに使用される半導体の開発・量産に貢献し、半導体産業の発展をグローバルにサポートしています。



微細ピッチ『バーインソケット』(0.3mmピッチ) サーマルLGA『バーインソケット』



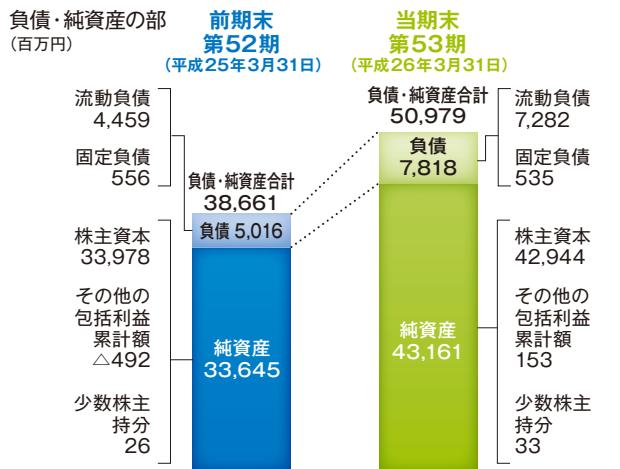
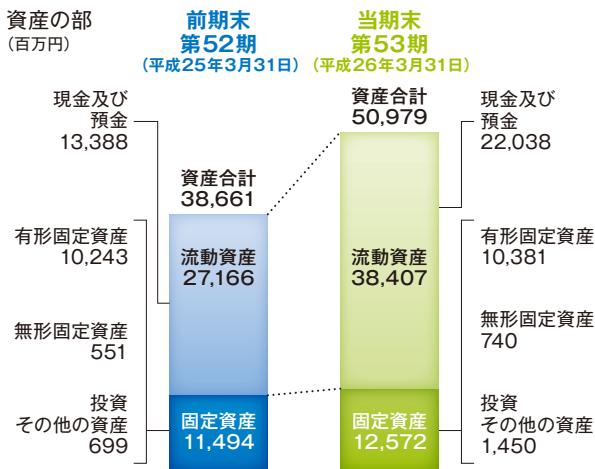
多ピンBGA『バーインソケット』



テストソケット H-type

連結財務の状況

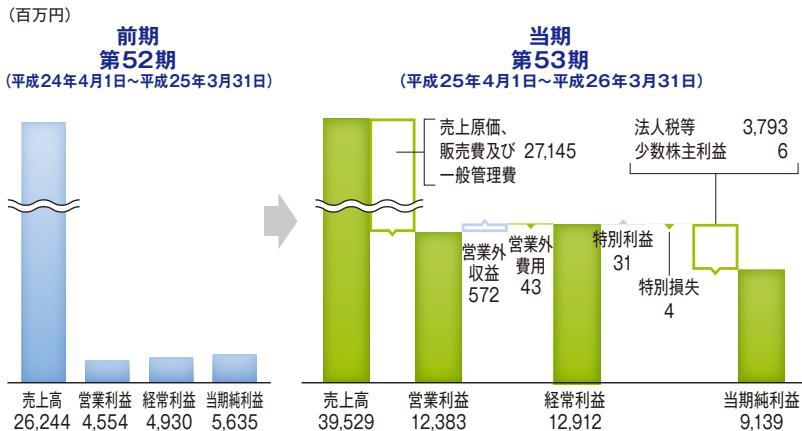
■ 連結貸借対照表の概要



資産合計増加の主な要因は、現金及び預金が8,649百万円、有価証券が2,600百万円、有形固定資産が137百万円、無形固定資産が188百万円、投資その他の資産が751百万円増加したことなどによるものです。

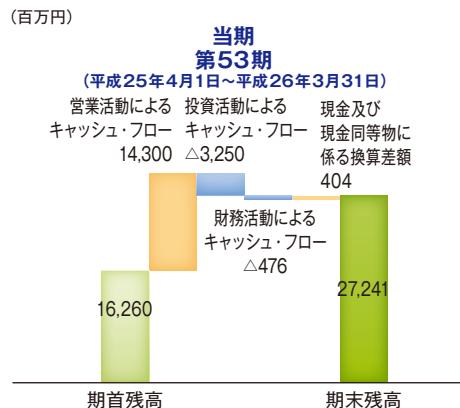
負債・純資産合計増加の主な要因は、利益剰余金が8,415百万円、為替換算調整勘定が684百万円増加したことなどによるものです。

■ 連結損益計算書の概要



連結売上高は39,529百万円(前期比50.6%増)となり、連結営業利益は12,383百万円(前期比171.9%増)、連結経常利益は12,912百万円(前期比161.9%増)、連結当期純利益は9,139百万円(前期比62.2%増)となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要



当期における現金及び現金同等物は27,241百万円となり、前期に比べて10,981百万円増加しました。

会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(平成26年6月27日現在)

(平成26年3月31日現在)

会社概要

商号	株式会社エンプラス
所在地	埼玉県川口市並木2丁目30番1号
設立	1962年2月21日
資本金	80億8,045万円

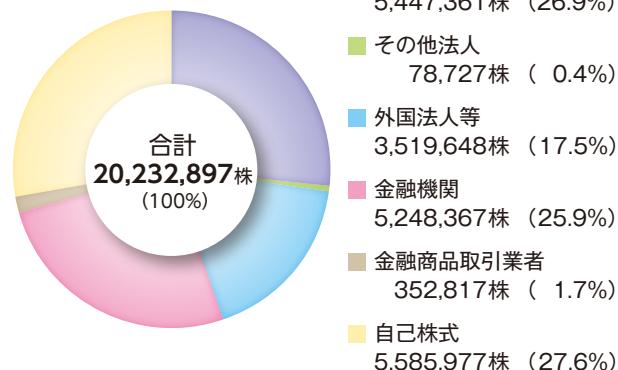
株式情報

発行可能株式総数	62,400,000株
発行済株式総数	20,232,897株
株主数	5,813名

役員

代表取締役社長	横田 大輔
取締役	酒井 崇
取締役	菊地 豊
取締役	丸山 良次
取締役	長谷川 一郎
取締役	沓沢 茂雄
取締役	クレイグ G ネイラー
取締役	ヨーン ヨン リオン
常勤監査役	手嶋 晴幾
常勤監査役	田宮 義男
監査役	檀原 武
監査役	落合 栄

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社本店および全国各支店で行っております。 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター(お問い合わせ先) ☎0120-49-7009
郵便物送付先、連絡先	定時株主総会の議決権 3月31日
基準日	電子公告 (http://www.enplas.com)
公告方法	ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。 貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (http://info.edinet-fsa.go.jp/)にて開示しております。
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第一部

グローバルネットワーク

■ 国内ネットワーク

本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号

鹿沼工場

栃木県鹿沼市さつき町7番2

名古屋営業所

愛知県名古屋市中村区名駅2丁目45番7号 松岡ビル3階

国内グループ会社

株式会社エンプラス研究所

埼玉県川口市並木2丁目38番5号

QMS株式会社

埼玉県川口市上青木1丁目3番12号

■ 西日本営業所

大阪府大阪市淀川区宮原2丁目14番4号 MF新大阪ビル9階

株式会社エンプラス半導体機器

埼玉県川口市上青木1丁目19番57号

■ 九州営業所

福岡県福岡市博多区博多駅南1丁目2番3号

博多駅前第1ビル2階

株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



本社
株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



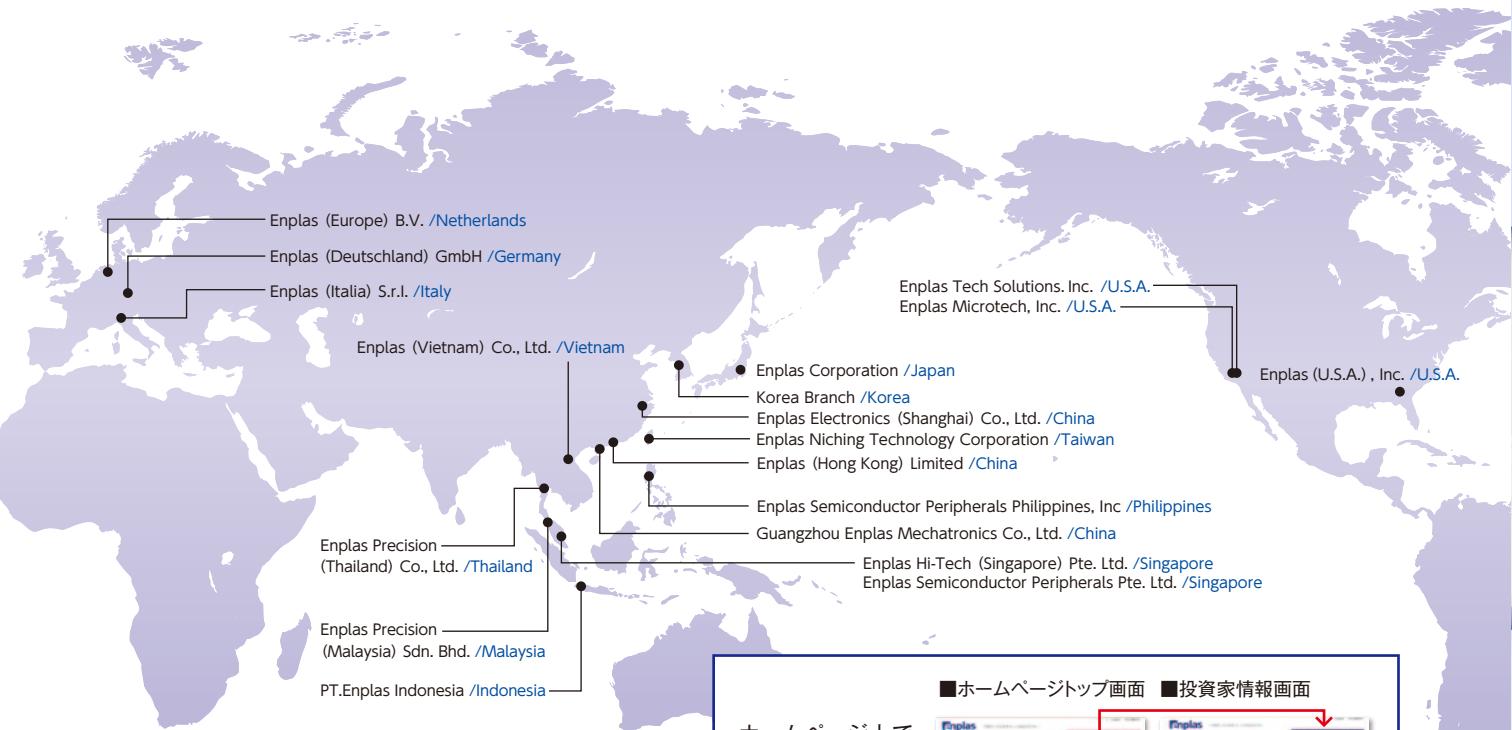
株式会社エンプラス研究所

グローバルネットワーク

■ 海外ネットワーク

技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688
http://www.enplas.com

UD FONT

見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

■ ホームページトップ画面 ■ 投資家情報画面



エンプラス

検索

エンプラス IR

検索